
恋文

両投エース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋文

【Zコード】

N8487A

【作者名】

両投エース

【あらすじ】

ある男が出したラブレターから始まる恋の話。

1章～告白～

俺、桜塚康則は幼なじみで同級生の木本紗季に告白する「」とを決意した。

だが度胸がなく、馬鹿な俺は直接はあまりにも怖くて、恋文を出して告白することにしたのだ。

そうと決まつたら俺はすぐに休みの日、紗季の机に恋文を入れて、月曜日にドキドキしながら登校したのだ。

学校が終わると告白をした相手の紗季に呼び出された。

俺は答えが聞けると、喜びながら紗季のところへ向かつた。呼び出された所にはまだ、紗季は来ていなかった。俺は

「まだ来てないのかよ。自分で呼び出しておいて……」

と少しイラッときたが、答えを聞けると喜んでいる俺はいつもほどではなかった。

するとそこで、紗季がやつて來た。俺は氣を落ち着かせて立つて、紗季の答えを待つた。

だが紗季はとんでもないことを言つたのだ。それは

「やつくん。あたし……こんな手紙もらつたの。」

と……。

（俺が差出人と気が付かないのか？）

と思いながらも俺は紗季に

「んで差出人は？」

と聞いてみたのだが紗季は俺に

「それが差出人の名前が書いてないの。」

と言ったのだ。

俺はそれを聞いて

（マ、マジ？ しまった。名前書くの忘れるなんて、馬鹿か俺は～
ウワア～ッ。）

とどんどん自分でも訳が分からぬ状態になつていった。

俺がそんな状態とも知らず紗季は

「遂にラブレターよ。あたしにも彼氏が。春の予感。」

とかなりの喜びようだった。

だが俺は紗季に

「で、俺にそれを言いたかつただけか？」

となんとか冷静さを取り戻して言つた。

するヒロ季は俺に

「とにかくこれ誰が出したか、知らないかと思つても。立ち話もアレだし、やつくんの家に直行。」

と慌つて俺を引っ張つて行つてしまつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8487a/>

恋文

2010年10月28日07時43分発行